

本校では、新型コロナウイルス感染症予防のため、以下の措置を決めました。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3月8日（日）の「第23期生 卒業制作発表会」は予定通り開催しますが、参加は、在校生と講師・指導員、学校長、一部の理事、教務担当者に限らせていただきます。

3月28日（土）の「第23期生 修了式」は本校の訓練（授業）時間に含まれる「修了式」等は開催しますが、来賓、家族の参加はご遠慮いただきます。研修生派遣事業主の参加は希望があれば受け付けますが、体調がすぐれない方は参加をご遠慮いただくようお願い申し上げます。なお、例年、修了式後に開催していた祝賀会は中止します。

ご来校の際には、入り口等に設置しておりますアルコール消毒液を用いた消毒、手洗い、咳エチケットなど感染拡大防止にご協力ください。なお、予防措置として事務局員がマスクを着用させていただきます場合があります。

新型コロナウイルス感染予防について

「夢」を「希望」にする大改修！

ミニ公開講座で空き家対策を学ぶ



携わったリノベ事例を紹介する執行香織講師

今年度のミニ公開講座では、日本社会全体の大問題である空き家対策を取り上げました。2月28日に開催した講座では、本校で情報系授業を担当する、執行香織講師が「『夢』を『希望』にするリノベーション（大規模改修）」と題して、空き家の活用事例を報告しました。

「こひつじ商事」によるシェアハウス企画・運営などの事例を通して、時代に即したリノベーションの重要性を強調しました。同社への依頼で多い

執行講師は、前半で「日本の空き家事情」「空き家が生まれるメカニズム」「なぜ活用されないのか」を整理した後、後半

のは、相続案件や隠居（入院）のため本人が住めなくなった住居の利活用だそうです。代表的な事例として、品川区大井にある古い風呂なしアパートをシェアハウスに変身させた経験や、文京区向丘の昔は食堂だった店舗兼住宅を若手起業家のための創業オフィススペースに変えた仕事を紹介しました。

「使われていない不動産の再生はスクラップ＆ビルドからの脱却になり環境対策上のメリットがあります。歴史的町並み

の継承や地域コミュニティの復活など社会的意義も大きい」。執行講師は確信を込めて語りました。受講者は今期のミニ公開講座で一番多い20人。テーマへの関心の高さも印象付けました。



次回のミニ公開講座では、23区で空き家率が一番高い豊島区の調査結果を報告し、課題解決の展望を語り合います。困難性についても直視し、建築専門家の社会的使命を考えます。

3月13日（金）午後7時から、会場は池袋校舎〔参加無料〕

「増え続ける空き家をどうする！

豊島区の現状から考える」（広瀬達雄 講師、一級建築士）

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！

TEL
03-
5950-1771

第25期生 臨時募集 対象者をご紹介します

2020年4月入学生を若干名、臨時募集を行います。建築カレッジで学ぶ2年間は人生で貴重な体験になります。対象者をご紹介します。この機会を逃さず応募をお願いします。

個別に学校説明、応募受付、入学選考会を行います。まずはご連絡・ご相談ください。

東京建築カレッジ 事務局・教務
西岡、須藤、吉川
☎ 03-5950-1771

募集活動では、スマホ対応の学校紹介ウェブサイト
をぜひご活用ください。



2年生の授業から

挽回に懸命（コンテナハウス班）
Ⅱ 左写真

「卒制発表会」まであと7日

東京建築カレッジの修了（卒業）直前のビッグイベントが「卒業制作発表会」です。新型コロナウイルス感染予防のため観客招待は取りやめましたが、3月8日の発表会は予定通り開催する予定です。一週間前、3月1日時点の到達点を報告します。

今回の卒制は、①「スケッチアップ」



を利用したプレゼンテーション」班、②「コンテナハウス」班、③「ゾム・ドーム」班、④「すべり台・ブランコ」班、⑤「屋台」班、⑥「反り橋」班、⑦「船頭小屋」班の7つ。

コンセプトワークから大幅に遅れていた「コンテナハウス」班は模型作りを開始、挽回中です。

「ゾム・ドーム」班は多面体構造によるドーム型屋根の形が見えてきました。制

1年生の授業から



野地板を取り付ける24期生。指導員が張り付けて作業の手順を丁寧に教えています。

「実習棟実習」は野地板、下葺き、間柱、筋交い

24期生（1年生）は、実習棟の屋根の野地板、間柱、筋交いなどの作業に取り組んでいます。フルハーネス型の墜落制止器具を身に付け、作業床のないところでは正しく使用し、安全第一で訓練（授業）を進めています。今後、実習棟実習は窓、内法（うちのり）を行い、2年次最初の演習課題、廻り階段まで続きます。

学科授業（座学）はCAD（コンピューター支援設計）や住宅設計の授業が本格化しています。CADはパソコン操作に慣れていない研修生のために、初歩的操作を繰り返して丁寧に教えています。住宅設計は実在する敷地に、



自分が想定した施主家族のための住宅を自由設計するというもの。環境や法律の規制は受けつつも、創造力次第で自由度が増していく建築の魅力を感じながら、授業は進みます。（左写真は「CAD設計演習Ⅰ」）

作者ホセさんの大学の卒論テーマは「住宅建築に利用できるドーム構造」。研究

の方向は一貫しているようです。「すべり台・ブランコ」班は軸部分が

完成。柱を立てるだけで神々しい雰囲気になり、各部材の取り付けが間近です。

「屋台班」は京都北山から取り寄せた磨き丸太による垂木を付け始めました。



上から「ゾム・ドーム」班、「すべり台・ブランコ」班、「屋台」班。安全第一で制作を進めています。

ミニニュース

無料職業紹介所

登録事業所20社に

本校に入学を希望する人に優良な就職先を紹介するため、18年1月開設した「東京建築カレッジ 無料職業紹介所」（所長 小林謙二学 校長）はこのほど、登録事業所が20社に達しました。労働基準法などの順守に加え、本校の学費を全額会社負担で社員研修派遣を行うシステムで、この方式で採用活動を有利に進めた事業所もあります。

本校母体の東京土建一般労働組合では「支部ごとに2社以上の登録事業所をつくろう！」を当面の目標に掲げています。地域建設業のこれらの担い手を確保・育成する活動であり、本校の存在意義はこれまで以上に光っています。